

# 県私幼会報

No.208  
平成23年7月20日



発行人：理事長 前田邦光 社団法人新潟県私立幼稚園協会 新潟市中央区笹口1丁目12番地7 タイアパレス笹口内 TEL(025)245-2691 FAX(025)245-2692

## 平成二十三年度 事業方針

### 事業方針

子ども・子育て新システム検討会議のいわゆる「幼保一体化」の構想は、幼稚園制度存続ということになりましたが、最終的な決着については、今後も私たちの意見を発信しつつ、議論の行方を注視しなければなりません。

教育と保育のシステムが多様化・複雑化してきている時代の流れであるからこそ、百数十年という長い歴史を有する幼稚園教育をさらに充実させ、その意義や素晴らしさを社会に広く深く知らせていく営みを本年も全力で行っていきたく存じます。

一方、この度の東日本大震災と福島原発の事故は、人知を超えた規模と悲惨さで被災者はもとより、全国民に大きな試練を与えています。当県へは福島県をはじめ多くの被災県から8,000人へのぼる人々が避難のために来ています。その中には多数の幼児も含まれており、すでに県内各地の私立幼稚園へ転入した事例も報告されています。被災各県の私立幼稚園に対する援助と同時に避難園児の受け入れも急務です。幸い、文部科学省も園児受け入れに対する財政処置を行なう旨発表していますので、その推移を見守りたいと思います。

復旧・復興はこれからは本番です。私たちの力で出来ることは何か、やるべきことは何かについて衆知を集め、積極的に行動していきたく存じます。以上の状況をふまえ、本年度は下記の事業に重点的に取り組んでいくものとします。

#### 一、私立幼稚園教育力の充実・向上

私立幼稚園にとって、優れた教育力がその生命線である。学校教育の第一段階として、社会や保護者の信頼に応えるため教員の資質向上を図り、更なる教育力の充実・向上を推進したい。

#### 二、私立幼稚園振興の推進

教育の質の担保のためには、公的支援は不可欠である。

全国的にも高いレベルにある当県私幼教育により、「子宝王国」を実現するため、私幼振興を強力に推進したい。

#### 三、自己評価・学校(園)評価・外部評価とその公表の促進

各幼稚園の更なる教育力の充実・向上と質の担保のためには、自己評価・学校評価・外部評価は不可欠であり、当県はその面では先進県である。また、それらを様々な形で公表することは、私立幼稚園教育のすばらしさを広く社会に発信することに他ならない。それらの実施について促進したい。

#### 四、協会の組織と事業の強化

##### (1) 組織強化・事業特化

激しい変化の時代の中、今後10年間を見据えて協会の組織と事業を強化、特化したい。これまでの事業や組織のあり方、仕事の分担、責任等を見直すと同時に若手園長等が活躍できるような環境整備を行い、協会の活性化を図りたい。

##### (2) 情報の収集・分析と発信強化

幼保一体化・私学助成・子育て支援などについて、国や県、各市町の動向から目を離すことはできない。様々な情報を的確に収集・分析・判断し、紙媒体や電子媒体によって広報したい。国の動向把握は当然であるが、特に各市町との対応を強化することが急務である。

##### (3) 優秀な人材確保のための活動強化

時代の変化等によって、各園の人材確保が容易ではない状態が生じている。優秀な人材を確保し、その資質向上をはかることは私幼にとってこれからはますます重要な課題である。協会としてやるべきことは何か、何ができるのかについて検討することから始めたい。

#### 五、東日本大震災に関連する支援事業

今回の被災園・被災者・避難園児に対し県私幼協会単独で、時には全日本私立幼稚園連合会と協力・連動して様々な支援に関わる活動を行いたい。

##### (1) 災害積立金をお見舞いとして執行

義捐金の送付、場合によっては更なる募金活動。

##### (2) 被害各幼稚園・園児・保護者・教職員に対する支援

被害・避難園児の受け入れ支援

##### (4) 県や各市町に対する支援に関する要望活動

# 平成23年度 県私幼事業計画

## 総務部

事業内容	備考
1. 経営委員会の活動 (1) 教職員の待遇改善 (2) 経営実態調査と経営改善計画 (3) 保育制度改革について (4) 人材確保について	
2. 広報委員会の活動 (1) 会報小委員会の活動 (2) IT小委員会の活動	県私幼会報発行 (年2回) PTA連合会会報発行 (年1回) 県私幼HPの活用
3. 県私幼設置者・園長研修会の開催 研究部と合同 *	総会后開催 5月18日(水) 子サンホテル
4. 経営研修会の開催 *	11月
5. 一般社団法人移行認可に向けた活動	
6. (全) 関東地区代表者協議会の参加	11月9日(水)～10日(木) 栃木県宇都宮市 理事長・副理事長・常任理事参加
7. (全) 設置者・園長全国研修大会の参加	10月24日(水)～25日(木) 熊本県
8. 県私幼理事会・監事会・総会等の開催	第1回理事会 4月20日(水) 総会 5月18日(水) 子サンホテル
9. 全日私幼関連事務の処理	
10. 永年勤続者の表彰	10月6日(木) 教育研究大会時

(注) \*印：県私学振興会補助事業

## 振興部

事業内容	備考
1. 私立幼稚園補助金の助成要望	
2. 「幼児教育を考える会」との連携強化	教育懇談会 開催予定
3. 知事との懇談会	
4. 地元市町の首長・議員との連携強化 (市・町の私幼補助金の実態調査)	
5. ビジョン策定委員会の活動	
6. 全日私幼連PTA連合会全国大会への参加	

※PTA研修会は平成24年度開催予定

## 研究部

事業内容		備考	
1. 県私立幼稚園教育研究大会の開催	*	10月 6日(木)	上越市：リージョンプラザ上越
2. 幼児教育講座の開催	☆	1月 6日(金)	新潟市：学生総合プラザSTEP
3. 新幼稚園教育講習会の実施	*	11月～12月	各地区で開催予定
4. 設置者・園長研修会の開催	総務部と合同	*	5月18日(木) 総会后 新潟市：チサンホテル
5. 統合保育研修会の開催	*	開催日未定	
6. 研究委員会の活動		統合保育調査研究委員会・学校評価検討委員会	
7. 全日私幼連関東地区教員研修山梨大会の参加		8月18日(木)・19日(金)	山梨県甲府市：山梨県民文化ホール
8. 全日私幼連実施研修会等の参加		全国研究研修担当者会議	
9. 研究集録の編集・CD作成	*	第36号	
10. 県教委主催研修会等の参加			
研修名		開催日	会場
(1) 新規採用教員研修 (10日間)	第1回 基礎研修	6月 1日(木)	県立教育センター
		6月29日(木)	
	第2回 保育技能基礎研修	7月27日(木)・28日(木)	県立教育センター
	第2回 宿泊研修	8月10日(木)～12日(金)	新潟県立青少年研修センター
	第3回 保育参観研修	11月 1日(木)・ 2日(木)	新発田市立加治川幼稚園 (下越)
		11月10日(木)・11日(金)	真人幼稚園 (新潟)
		11月15日(木)・16日(木)	小千谷幼稚園 (中越)
		11月15日(木)・16日(木)	上越市立高田幼稚園 (上越)
		11月28日(木)・29日(木)	曾野木まるみ幼稚園 (新潟)
		11月29日(木)・30日(木)	新潟大学教育学部附属幼稚園(中越)
	第4回 学校参観研修	12月 5日(木)	上越市立高志小学校 (上越)
		12月 6日(木)	新発田市立猿橋小学校 (下越)
		12月 7日(木)	燕市立燕南小学校 (中越)
1月25日(木)		新潟市立新潟小学校 (新潟)	
(2) 教職5年経験者研修 (2日間)	第1回 研修	6月 8日(木)	県立教育センター
	第2回 研修	11月18日(金)	
(3) 教職12年経験者研修 (7日間)	第1回 全体研修1	5月17日(木)	県立教育センター
	第2回 社会体験研修	7、8月のうち1日	新潟市立ひしのみ園
	第3回 コース別研修	8月 1日(木)・2日(木)	県立教育センター
		8月19日(金)	
	第4回 保育専門研修	10月26日(木)	新潟県立幼稚園
第5回 全体研修2	12月26日(木)	県立教育センター	
(4) 新任園長研修 (2日間)	第1回 研修	5月26日(木)	県立教育センター
	第2回 研修	10月17日(木)	
(5) 新任教頭研修 (2日間)	第1回 研修	5月27日(金)	県立教育センター
	第2回 研修	10月 3日(木)	

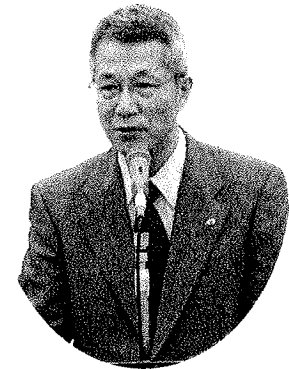
(注) \*印：県私学振興会補助事業

☆印：県私学団体振興補助事業

# 第四十一回県私幼通常総会



前田理事長



唐沢文書私学課長

●とき 平成二十三年五月十八日  
●ところ 新潟市「チサンホテル」  
●会員総数 一二三園のうち出席六十八園

欠席四十五園（委任状提出二十二園）で  
定款第二十七条により総会は成立。

小池副理事長の開会挨拶後、来賓として  
ご臨席を賜った県知事代理の唐沢文書  
私学課長からお祝いの言葉を頂いた。

挨拶終了後、知事代理と来賓の方々は  
退席された。

義務教育課からは指導第2係の横堀係  
長にご出席いただいた。

文書私学課からは私学係の木村係長に  
ご出席いただいた。

（抄）新潟県私学振興会からは本多局長に  
ご出席いただいた。

## 第一号議案「平成二十二年事業報告及 び決算報告について」

角谷総務部長・吉井振興部長・船岡研  
究部長から各部の概要報告があり、つづ  
いて事務局から決算報告の後、根津監事

の監査報告があり、満場一致をもって承  
認された。

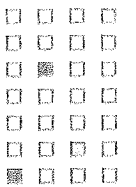
## 第二号議案「平成二十三年事業計画及 び予算案について」

理事長から事業方針を、各部長から事  
業計画について提案があった。角谷総務  
部長より一般社団化移行認可に伴い会計  
基準が変更になったこと、会費徴収内訳  
変更についての提案があった。最後に事  
務局から予算案について提案があり、異  
議なく満場一致をもって承認された。

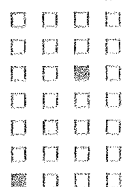
## 第三号議案「義損金について」

角谷総務部長より、東北地方太平洋洋  
地震に際しての義損金送金の報告ならび  
対応提案があり、異議なく承認された。

一般社団化移行認可に伴う公益目的支  
出計画書について角谷総務部長より説明  
があり、最後に石田副理事長の開会の挨  
拶で総会を終了した。



# 設置者・園長研修会



## 「これからの幼稚園の 役割について考える」

先般行われた園長・設置者研修会では  
横浜市から港北幼稚園の理事長・渡辺英  
則先生をお招きして「これからの幼稚園  
の役割」というテーマでお話を頂いた。

これからの幼稚園の役割を考える時に  
最も必要なことは、「子どもの視点に立  
って考える」ということではないだろうか。

今この国の政策や行政の考え方の大きな  
流れは、とにかく子どもを産んだら保育  
所や託児施設に預け、みんなしっかり動  
きなさい、というものである。そのため  
の長時間保育はますます長時間化、病後  
児保育等は全国に普及し、とうとう24時  
間預かる施設まで登場した。それにはそ  
れなりの、やむにやまれぬ事情があるの  
だろうが、残念ながらそれらの多くは大  
人の視点・都合でしか考えられていない。  
子どもの視点というものが決定的に欠け  
ているのだ。

なぜ世の中はこのような流れになって  
しまったのだろうか？ 社会全体が山積す  
る諸問題の克服にしか目がいていない  
ためである。喫緊の課題を必死にこなし  
ていくことで手一杯で、長期的な展望も  
なければ大局観で日本の将来を捉える事  
もない。目先のことで終始してしまっ  
ているためである。しかもそれら問題の多  
くは、大人（親）が原因を作っているも  
のばかりだ。その大人（親）の諸問題の  
為にいま、一番弱い、守られるべき子ど

真人幼稚園 園長 前田 幹

もがないがしろにされている。子どもを  
産むのは親の勝手だが、大人の都合を子  
どもには押し付けてはいけない。我々  
はできることなら（もし本当にそれが可  
能ならば）、今こそ虚心坦懐に子どもの  
声に耳を傾けなくてはならぬ。

いま、この国で本当に守られるべきは  
子どもたちである。だがその事を真剣に  
考え、行動している大人がどれだけい  
らうだろうか？  
子どもは日本の未来である。時流に流  
されず、本気で子どもの視点に立ち、彼  
らと共に生きることを通して命がけで守  
ってやれる大人たち。もし私立幼稚園に  
未来があるとするならば、私たちの役割  
はそれだろう。そんな思いを新たにした  
研修会であった。



# 新任の御挨拶

新潟県総務管理部文書私学課

私学係長 木村 敏 栄



私立幼稚園関係者の皆様、この4月から私学係長を務めている木村と申します。文書私学課の勤務は初めてとなりますが、よろしくお願いたします。

私が生まれ育った町には、私立幼稚園が1か所だけだったこともあり、私も保育所に通っておりました。小学校に入学した当時のことを思い出してみると、幼稚園からやってきた同級生は、良い意味で「大人びた」感じがして、クラスの中でも進んで行動する活発な子達が多かったですように思います。個性や人格を形作るうえで大変重要な幼児期において、幼稚園での学びや共同生活を経験したことで、自ら考え、主体的に物事に関わろうとする意欲が育まれていたのでしょう。地域

において幼稚園が果たしている役割の大切さを改めて実感いたしました。

さて、皆様ご承知のとおり、このたびの東日本大震災では、私立幼稚園に通われていた多くの幼い命が失われ、幼稚園施設も甚大な被害を受けました。このようなか、県内の私立幼稚園におかれては多くの被災した子ども達を受け入れておられます。また、全国の私立幼稚園の皆様による支援の輪が広がり、様々な形で被災地支援に取り組まれているとお聞きしております。このような緊急時だからこそ、国・県はじめ関係者ができる限りの支援に努めることが必要となっています。被災地における私立幼稚園の復興と被災した皆様の生活の安定が一日も早く実現されるようお祈りいたします。

最後にになりましたが、県の行政は「現場重視」の視点で進めております。現在、国においては幼保一体化の検討がなされておりますが、県といたしましては、皆様方のお声をお聞かせいただきながら引き続き私立幼稚園の運営が円滑に進むよう取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

## 「幼保一体化とこれからの幼稚園運営について」

マハヤナ幼稚園 園長 石田 明 義

私立幼稚園にとって幼保一体化の課題は、今後いっそう重要になってくることだと思います。その理由を二つの観点から考察いたしますと、一つに大都市と地方の幼稚園の運営基盤状況の温度差があるということと、少子高齢化が進むほど、都市部へ人口が集中し、地方は過疎化が深刻化します。大都市においては人口減の影響は緩やかですが、地方は大きな影響を受けます。この点については、より大局的な観点からの対応策を早々に検討していかなければならないでしょう。

もう一つの観点は、少子化の時代の中で少ない子どもたちに、質の高い保育と教育を提供していかねばならないということです。就労環境が多様化していく中、急増するフルタイム労働の保護者からも、教育・保育の質を求める声が多くなっています。あわせて、資源の乏しいわが国は技術立国として戦後、先進性を維持してきました。ものづくりや学術・芸術・他分野で活躍できる人材の育成に、わが国の将来が懸かっていると、言っても過言ではありません。「豊かな国づくり」は「確かな人づくり」からと言いますが、豊かな心と感性を持った品格のある国際人をはぐくんでいかなければならないでしょう。

当園は今春四月より、認定こども園の認定を受け、「ミルフィーユ保育園を開園



致しました。0歳から2歳までの乳幼児をお預かりしています。ようやく2ヶ月が過ぎ、乳幼児の生活をみて実感したこととは、幼稚園児と比べて、とても成長曲線がゆるやかであるということです。植物に例えると、土の中にゆっくりと根を伸ばし、根を張る時期といえます。この時期は樹木が伸びる上で最も重要な時期でもあります。やがて3歳になり、パツと新芽を出すのです。

まだわずかの期間ですが認定こども園開設を通して学んだことは、はじめに「教育論」ありきではなく、人間とは？という「人間論」も考えさせられたことです。0歳から5歳まで一体的に育ちを見れることは人間教育の本質に迫れる事でもあります。今後、こども園又は総合施設に展開されるにせよ、大切な事は、私学の建学の精神を二度再確認し、明文化して、保護者とともに共有化していく事だと思っております。

# 新任教諭の抱負

藤見幼稚園 教諭 南 雲 仁 美

私はこの春、専門学校を卒業し、幼少の頃から憧れていた幼稚園教諭という職業に就くことができました。現在、3歳児クラスの担任として、たくさんのかわいらしい子どもたちに囲まれ、楽しい毎日を送らせてもらっています。

新学期の準備が始まり、初めての経験ばかりで、期待と不安で心が押しつぶされそうでした。いよいよ入園式当日、目をキラキラ輝かせ、保護者に手をひかれて登園してきた子ども達の姿をみて、改めて、保育者としてこの子どもたちを守っていかねければならないという責任が芽生えました。

しかし、実際に保育が始まると、思うように進めることができず、反省ばかりの毎日で、時にはくじけそうになることもあります。そんな時、子どもたちとの毎日の生活の中で起きる、楽しいこと、嬉しいこと、そして何より、明るい笑顔に励まされ、「また、がんばろう」という気持ちにさせてもらっています。

入園からわずか数カ月、子どもたちの成長の早さに驚かされます。昨日までできなかったことが今日にはできるようになっていきます。その成長を共に喜び、褒めてあげること、それが自信となり、また新しいことに挑戦していくこうとする気持ちが生まれます。そんな成長の姿を見て、保育者の子どもたちに対する言葉かけがいかに大切な

ことであるかということに改めて気付くことができました。

子どもたちは、本当に素直で、純粋な心を持っています。自分の身の回りの様々なことに興味を持ち、次から次へと自分の世界を広げていきます。そのような子どもたちと同じ目線にたつて物事を見つめてみると、また新たな発見や気づきがあり、子どもたちから教えてもらうことはあります。好奇心から生まれる、「何だろう」「どうしてだろう」という子どもたちのつぶやきに聞いていねいに耳を傾け、気持ちを共有していくことの大切さを知りました。「先生、見て見て!」「先生、あのね!」と一生懸命語りかけてくれる子どもたち。その一言一言やその瞬間を大切に、素直な気持ちで子どもと向い合い私も一緒に成長していきたいと思っています。

幼稚園教諭は、時には音楽の先生になったり、遊びの達人になったり、看護師さんになったり、工作の名人になったり…と一人で何役もこなさなければなりません。子どもたちとかわりながら一緒に様々な経験が出来る魅力的な仕事です。そんな仕事につけたことを誇りに思っています。これから子どもたちと喜びや感動を共感しあえる心を持ちつづけ、いつの日か「先生のようにになりたい」と憧れてもらえるような幼稚園教諭を目指していきます。

# 新任主任のこころ

亀田カトリック幼稚園 主任 小千田 裕 子

平成十九年四月、保育園勤務を辞め、縁あって私の古巣であるこの園へ戻ってきました。新卒で入ってから十一年間勤めたこのカトリック幼稚園でまた仕事ができる、ということ、名ばかりではあるものの、カトリック信者である私にとっては、とても幸せなことでした。また、幸いモンテッソーリ教育とも、ずっと離れず携わっていたこともあり、こんな私でも、何かのお役に立てればと、とてもワクワクした、しみじみ気持ちで胸がいっぱいだったことを思い出します。しかし、主任、など、その頃の私には、全く他人事ではありませんでした。

実のところ、私は今年初めて主任になったわけではないのですが、今年、新たな出発点に立って、ようやく自分から、主任としての第一歩を踏み出し始めたところです。主任一年目は、それはもう散々なものでしたから…。主任とは…? なぜ私が…? 何をどうしていいのか、どこにどう配りをすればいいのか、何から何まで疑問だらけ、不安だらけの毎日。完全に自分自身を見失ってしまった一年でした。

ようやく今年度に入り、何もかも自分ひとりで抱え込まず、私のできるころから、少しずつやっていけばいいのだ、と思えるようになりました。

『個性豊かに自立する子ども』『協調しながら創造する子ども』『痛みのわかるやさしい子ども』この三つが当園の教育

目標です。まず私自身が、少しでも教育目標のような人間に近づけるよう日々努力し、自分ときちんと向き合うことの大切さ・必要性を感じています。

主任として、できる限り教職員の間をくみ取り、それを園長はじめ、他の教職員とも共有できるような雰囲気を作ることが大切です。また、細かなことであっても園長への報告・連絡・相談を心がけること。そして何より、常に園長のよき理解者であり、園長の思いを教職員に伝えていくことが、主任としての務めだと思っています。

教職員一人ひとりが相手を思いやる気持ちを忘れずに、みんなで話し合い、協力し合い、お互いの強みを十分に生かして発揮していけるよう、サポートしていくこともまた、私に与えられた役割なのだと思います。そのためにも、今自分のできることから実行に移し、一つずつ積み重ねていくことを大切にしていこうつもりです。

今は常に笑顔の絶えない、明るく安心できる職場であることに幸せを感じています。そして何より、充実した毎日が送れることを感謝せずにはいられません。神様からの大切なあずかりものである子どもたちのために、常に愛情を持って、心からの笑顔と安心感を届けられるよう、いつも心にため、日々の保育にあたりたいと思います。

# 保育体験記

## 福島からの子どもを支援するために

## 「気持ちよく遊びたい」の大切を

小鳩幼稚園 園長 池田 廣美

金城幼稚園 教諭 丸山 晴香

東日本の未曾有の大震災で被災された方々多数が、新潟県内で避難生活をされている。柏崎には、三割。市内五つの幼稚園には約二十名の園児が転入園している。どの園でも懸命に対応し関係者から言われている。突然被災され、そのまま自宅にあった家具、衣類、食器、玩具、絵本、アルバムなど一切持ち出せないまま転々と避難されてきた。さらに様々な生活の心配、先の見えない不安の中の生活が続く。それでもまず、子どもたちに幼稚園を求められた親御さんたちの哀しいまでに切ない親心に泣かされた私たちであった。

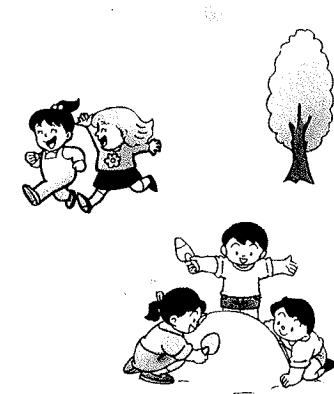
当園では今日も突然、柏崎に來ている父親から、福島県で離ればなれに避難している家族を呼び寄せたいが入園について相談に乗って欲しいという申し出があった。逆に福島へ突然の異動もある。流動的な動きは今後も予想される。小鳩は、現在六名を受入れている。

それぞれ事情が違い生活環境が異なる子どもたちを迎えるにあたって一番心したことは、小鳩の全教職員で特別視しないことと、特別扱いしているということは一切感じさせないことだった。他の多くの園児たちと同じに屈託なくのびのびと当たり前の幼稚園生活を楽しんでもらいたいからであった。もちろん、必要な心のケアや、制服類や文房具等役に立つであろう物心の支援・協力は惜

しまない。

年長児からは、早々から友達ができ、前の幼稚園時代の絵の具作りや給食の思い出を語り、「でも、もう幼稚園は、ないんだよ。」「震度7だったんだよ。」と地震や津波の話をする。ことあるたびに、給食がうまいと食べ残さない。園にもすっかりなじんで、目下マーチング演奏に打ち込んでいる。年中児も、子どもなりに初めから頑張っている。初めての園歌を口をパクパクさせても一緒に歌おうとしていた。担任は、あんまり無理をさせないよう逆さのセーブを掛けるかわりをしてきたという。年少に新入園したNは、家にいる間は絶えず地震が怖い怖いと怯えていたが、今、幼稚園が楽しくて仕方がないと家でも元気に遊んでいると言う。お母さんは、幼稚園に入園できて心のケアになり、助かったとのこと。

今後、保護者の力も借りながら親子バス旅行、縁日やコンサート、おもちゃ大会等、みんなが癒され元気になる交流の場を企画し、じっくり実施していきたい。



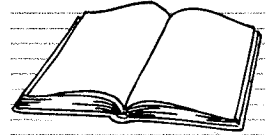
私は、今年金城幼稚園に新卒採用となりました。金城幼稚園には、福島県から湯沢町・南魚沼市へ避難をされている方が順次入園し、6月10日現在25名おります。今回避難をしてきた子どもにも関わり、私が学んだことがあります。それは、一人ひとりの気持ちを受け止めながら寄り添っていくことの大切さです。気持ちを受け止め、触れることで安心できるというのを改めて感じました。それぞれの子どもたちは各園で、園の生活にも慣れ、友達もできて楽しく園生活を送っていたと思います。3月11日に発生した東日本大震災の原発事故により、避難を強いられんだ土地や家ではなく、新しい土地で他の人と一緒に生活しているため、子どもたちもストレスを感じているはず。それに加えて新しい幼稚園に通うとなれば、今まで通っていた園と生活リズムや決まり事など違うところがいくつもあります。知っているお友達もいません。その中で

の登園は、不安や緊張でいっぱいだったと思います。避難をしてきた子どもたちが初めて登園してきた時は、不安そうな表情で笑顔も口数も少なく、寂しくなっている様子も目立ちました。しかし、保育者が声を掛けながらそばに寄り添ったり、抱っこしたりと一人ひとりの気持ちを理解し、安心できるように関わりをするように心がけることで少しずつ笑顔も増え、口数も多くなってきました。

これには、在園児の影響もあると思います。初めてのことで迷っている子に優しく教えてあげたり、「一緒に行こう」と誘ってあげたりする姿も見られます。それによって徐々に園に慣れていき、クラスのみんなとの活動や自由遊びの時間をお友達と楽しんでいる姿も見られるようになってきました。

まだ、園に慣れていない子もいますし、これからの避難された子を受け入れていくことにもなります。クラスの人数も増え、今後クラスの活動をどのようにしていくかが一番良いのか考えて準備を進めています。難しい面も確かにあると思いますが、地震のことが避難をしていることについての不安や緊張を少しでも緩和し、安心して過ごせるように、できる限りのことをしていきたいと思っています。子どもたちの表情や様子を見て一人ひとりの気持ちを大切にしながら丁寧に関わっていかうと思っています。





# 私の好きな本

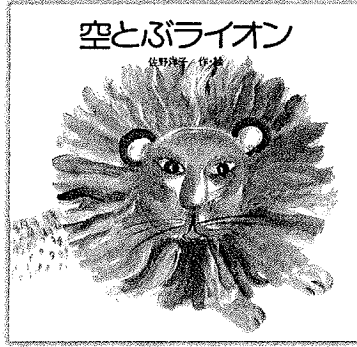
## 『空とぶライオン』

京王幼稚園 副園長 井村 静良

「空とぶライオン」は、平成22年に亡くなられた作家、佐野洋子さんの書かれたものです。この絵本を初めて読み終えたとき、非常に不思議な読後感がありました。その読後感の正体が一体何なのかはつきり分からぬまま本棚にしまい、読みはらへ間を置いて再度引っ張り出してきて読む、というのをこの原稿を書いてる時も繰り返してあり、よってこの本についての自分なりの解釈も定まっていないうちにありますが、それでもとても印象深く心に刻まれ続けているこの本の内容について触れさせていただきます。と思います。

あるところには一匹のライオンが親戚である猫(複数)と暮らしています。ライオンはとても立派なたてがみと、とても勇ましい声を持っているので、猫たちはライオンをなにかともてはやします。そのうすうすライオンは嬉しくなり、「ウォー」と勇ましく吠え、地面を蹴って飛びように走って、獲物を取ってくる、猫たちに惜しげもなく振舞うのですが、そんなことを毎日のように続けていると、さすがのライオンも疲れてきてしまいます。

訪ねてくる猫たちに、自分が疲れており休みたいのだというのを、極めて控えめに伝えようとするのですが、相手にしてもらえませんが、そうこうするうちにいつものようにちやほやされると、ライオンはいつものように



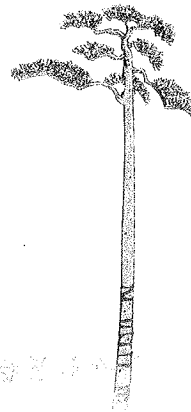
勇ましく吠えて獲物を取りに行き、いつもの猫たちに振舞ってしまうのですが、あるとき、獲物を取りに行こうとして、力尽きて倒れてしまいます。そしてそのまま金色の石になってしまい、何十年何百年と時が経ちます。いつしかライオンが石になってしまった理由が、急げ者で昼寝をし過ぎた故にそのまま石になってしまったのだ、ということになっていたり、とても報われない感があるのですが、ある猫の子どもが、石になったライオンを見たとき、傍らの母親に向かい、「きつと疲れてしまったんだ」と言います。その言葉を聞いたライオンは、長い眠りから目を覚まします。そして目覚めたライオンは、立派なたてがみと勇ましい鳴き声を子どもに褒められると石になる前と同じように「ウォー」と吠え、地面を蹴って空に駆け上がって行き、そこで物語は終わりになります。

勇ましく恰好よくて行動力のあるライオンが、なぜかちとも恰好よく思えませんが、そしてライオンをもてはやし獲物をごちそうしてもらおう猫たち、佐野さんの絵の効果もあってか良い印象を受けません。この絵本の中に出てくるライオンや猫たちが何を意味しているのか、何を表現しているのか、佐野さんが何を伝えたいのか、私は未だに思索中、そんな絵本です。

### 県文書私学懇の人事異動について

係長の交代

新任者 木村 敏栄 係長



### 【御礼】

この度の東日本大震災に際し、たくさん温かいご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。皆様からお寄せいただいた義捐金は、全日本私立幼稚園連合会を通じて被災地へ贈られます。支援活動については継続して行われる予定となっておりますので、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 敬弔

見附市 つぐみ幼稚園  
園長 岩坂はつる 先生  
平成23年5月30日 85歳  
ご生前のご功績を偲び  
謹んで哀悼の意を表します



◆住み慣れた我が家で暮らせる幸せ。家族の笑顔が揃う幸せ。何とありがたいことでしょう。この度の震災で亡くなられた方々、被災された方々、未だ不便な生活を余儀なくされている方々のことを忘れず謙虚に生きていこうと思います。

◆今回の県私幼会報は、諸々検討のうえ、構成がかなりぎつくりとしたものとなりました。今後より一層よい会報を作るためにも、これをお読みの皆様のご意見、もしくはご助言をお待ちしております。

◆「園長先生、おはようございます。」元気に弾んだ笑顔の挨拶は、一日の園生活開始のスイッチのような働きをする。挨拶のこだまが幸せを呼び。中でも、立ち上がり、立ち止まるとの挨拶は究極の美である。日本の美しい挨拶の源流を幼稚園で見つけた。

◆東日本大震災でのディズニースーツの対応について特集がありとても感動しました。臨機応変に素早く笑顔で対応する姿は素晴らしい、学ぶ事が多くありました。日頃の訓練があったからできる対応。改めて訓練の必要性・大切さを実感しました。

(ゆたか・五十嵐佳代)